

世界の178カ国のEFA通知表-日本は124位

**EFA目標を達成には依然遠いみちのり
7200万人が未だ学校に通っておらず、7億7400万人の成人が非識字者**

世界は、EFA目標を達成するには程遠い状況にある。多くの国で特に女子、障がい児、労働に従事する児童、農村や紛争地域の子どもたちに対する質の高い教育の不足によって目標達成が遅れており、他の国では進展が全く見られない。156カ国の途上国と22カ国の先進国の過去7年間のEFA目標達成のための努力を評価した通知表において、the Global Campaign for Educationは、7,200万人の子どもたちがいまだに初等教育を受けられず、7億7,400万人の成人が読み書きができず、EFA及びMDGsを2015年までに達成するには1,800万人の教員が不足していると指摘している。the Global Campaign for Educationは、Save the Children, Oxfam, the Global March Against Child LabourといったNGOならびに教員組合の世界組織であるEducation Internationalが参加している。

2000年から2015年までの中間年にあたり、通知表は、EFA目標達成に対する先進国の貢献度を、財政援助から政治的意思の欠如に至るまで幅広く分析している。EFA目標は、世界から非識字者を無くし、全ての子どもに無償の初等教育を保証し、質を改善し、ジェンダー不平等を是正するための実施可能な計画として、2000年に164カ国の政府によって合意された。

「私たちは、地球規模の教育の危機を終わらせなければならない。10億近くの人びとが教育を一度も受けたことがなく、4人の一人の女性が基本的な読み書きができない。ただし、これらは変えることができる。私たちは、政治的意思と資金があれば、全ての人へ教育を行き渡らせることが可能であることを知っている。しかしながら、政府の自己満足により、私たちが子どもたちが生きている間にこの達成することは難しい状況だ。今こそ、政府が子どもたちの要求に応え、言い訳をやめる時だ」と、the Global Campaign for Education代表のKailash Satyarthiは言う。

通知表は、'No Excuses'(言い訳無用)というタイトルで、全ての政府の現在までの進展をAからFによって評価している。全ての国家元首に対して、「就学率の増加」、「政治的意思」、「透明性」といった指標に基づいた成績と先生からのコメントが示されている。通知表は、現在は成績が悪いけれども好転する可能性をもっているクラス全体(世界)を描き、個々の生徒(各国)が成績を好転させるために必要なことを勧告している。

通知表の上位5カ国は、やる気の高さが成果をもたらしているモーリシャス、ラトビア、ウルグアイ、ハンガリー、スロバキアといった途上国である。EまたはFと評価された下位5ヶ国は、ハイチ、ソマリア、ギニアビサウ、ミクロネシア、中央アフリカである。

通知表は、いくつかの途上国が過去18年間に、基礎教育の普及拡大において大躍進を見せたと報告している。上位5ヶ国以外の国としては、ブラジル、コスタリカ、キューバ、メキシコ、スリランカ、タイといった国々である。また政府が近年学費を廃止したことによって就学者が数百万人も増えたケニア、カメルーン、ボツワナ、ブルンディも2000年以降驚くべき進展を見せた。

通知表は、先進国について、EFAの全ての目標を達成するための十分な長期にわたる資金援助を提供するという約束の達成度を評価している。ノルウェーやオランダが上位にランクされているのに対し、G8組の成績は総じて悪く、米国はG8組の中でビリだった。学校全体、つまり世界レベルで

は、イギリスが5位、カナダが36位、フランス91位、ドイツ109位、日本124位、イタリアと米国は最下位に近い146位だった。

「途上国は、先進国が援助の約束を守らなかったために、2000年の状況まで戻ってしまった。G8の数日間の軍事費と、全ての子どもたちを学校へ通わせるための資金はほぼ同じなのに」と、セネガル出身のthe Global Campaign for Education 理事、Gorgui Sowは言う。

通知表は、最も弱い立場の人の負担が最も大きいことを明らかにしている。学校に行っていない子どもの3分の1は障がい児であり、アフリカでは障がい児のわずか10%しか学校へ行っていない。少女についても、113カ国のうちわずか18カ国のみがジェンダーミレニアム目標を達成する見込みである。ソマリア、ハイチ、シエラレオーネ、リベリアといった底辺の成績だった紛争国の人々も、不利な立場におかれている。

「基礎教育は、人種、性別、宗教に関わらず、全ての人々に保証されるべきである。全ての政府は、市民の声をよく聞き、十分な資金と十分な質を保証しなければならない。それだけの余裕は政府にある。通知表は、このままでは今後7年間にわたり、10億人近い人々が、教育を受けることができないことを示している。このままでいいのだろうか？誰もが、何が重要なのかをわかっているはずだ」とGlobal Campaign for Educationの理事でペルーのNelida Céspedesはコメントしている。

通知表の原文（英語）は、[GCEのウェブサイト](#) でダウンロードできます。

非先進国の6指標の上位、下位国

基礎教育の完全普及：

第1位: セイシェル

下位国: アンティグア、バミューダ、北朝鮮、ハイチ

政治的意志:

第1位: サウジアラビア、タイ

下位国: コンゴ、エジプト、ハイチ、イラク、ジンバブエ

就学率の増加:

第1位: アフガニスタン

下位国: ハイチ、ソマリア、シエラレオーネ

教授と学習に対する質的インプット:

第1位: リトアニア

下位国: 北朝鮮、ハイチ、ソマリア

男女機会平等:

第1位: チリ、コスタリカ、ウルグアイ

下位国: ボスニア・ヘルツェゴビナ、ソマリア

透明性と説明責任:

第1位: チリ、バルバドス

下位国: クック諸島、ジブチ

先進国の上位、下位国:

第1位: オランダ、ノルウェー

最下位: オーストリア